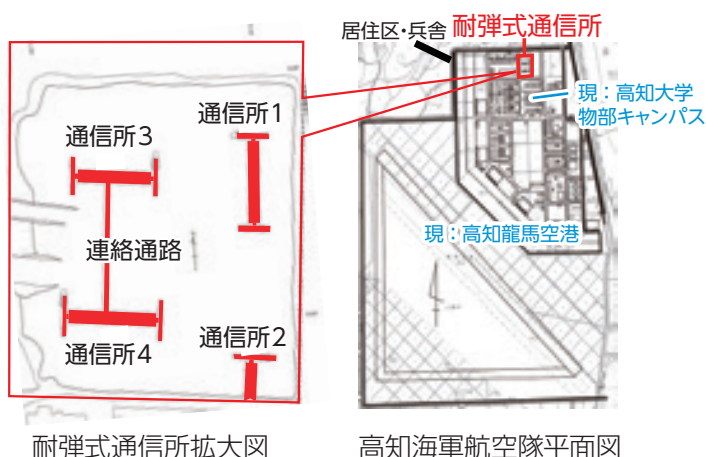




特攻の指令が出された耐弾式通信所の内部

命の重み

現在の高知大学物部キャンパスや高知高専あたりに海軍航空隊の居住区や兵舎があり、その一角に耐弾式通信所がありました。この施設は飛行機との通信をする管制塔の役割を果たした施設であり、沖縄への特攻の命令もここから出されました。戦況の悪化に伴って激しくなるアメリカ軍の空襲に備えて、50m四方の区画内の地下に全長20mほどの施設が4つ作られました。



通信所3・4 全体イメージ図



高知海軍航空隊通信所発掘調査についてはこちら

はじめに

80年前の6月、太平洋戦争末期の沖縄戦で特攻が行われました。特攻とは、人間が爆弾と共に敵に体当たりをする命がけの攻撃です。特攻はさまざまな方法で行われ、特に航空機によるものがよく知られています。沖縄という遠く離れた地で行われた特攻に、南国市も無関係ではありませんでした。

南国市と特攻

南国市からの出撃

1944年3月、今の高知龍馬空港の場所に偵察用搭乗員を養成する練習部隊として高知海軍航空隊が置かれます。

当初は練習部隊でしたが、戦況の悪化から1945年3月に特攻基地になり、それに伴って特攻部隊である菊水部隊白菊隊が編成されました。基地には白菊という練習機が配備されていました、速度が遅くとも実戦向きではありませんでした。しかし軍はこれに250キロ爆弾を2つ付け、2人の搭乗員を乗せて特攻機として出撃させる無謀な命令を出したのです。この命令を受けて白菊隊員は1945年5月6月にかけて、鹿児島島の鹿屋基地を経由して沖縄へ飛び立ち、26機52人が犠牲になりました。

壁の厚さは60cmにもなり、爆撃にも耐えられるようコンクリートで非常に頑丈に構築されています。戦争末期の物資も乏しかったであろう時期に、コンクリートを大量に使ってこれだけの施設を作ったのです。このことから軍が耐弾式通信所を中枢施設と位置付けていたことが分かります。戦時中は人の命よりも戦争のための機械を優先し、命を奪う命令が出されていました。戦争とは、命よりも機械を守ること、重点が置かれ、何が大事かという価値観さえ壊してしまうものです。

おわりに

戦後、耐弾式通信所周辺は高知大学物部キャンパスとして利用されており、高知大学と海洋研究開発機構が共同で世界最先端の研究を行っています。かつて人の命を奪う命令が出された場所では未来のための研究が行われていることを踏まえて、改めて平和と戦争について考えてみてはどうでしょうか。

熱中症を予防しましょう

6月は高湿度で気温が高くなり始める時期で、身体が暑さに慣れておらず、体温調節が上手くできない状態になりがちです。この時期からこまめな水分補給・室温調節など熱中症対策を心がけましょう。

昨年度は南国市で73名の方が熱中症と思われる症状で緊急搬送されています。

熱中症とは？

熱中症とは、温度や湿度が高い中で、体内の水分や塩分のバランスが崩れ、体温の調節機能が働かなくなり、**立ちくらみ、頭痛、吐き気**、ひどいときには**けいれんや意識をなくす**など、さまざまな障害を起こす症状のことをいい、最悪死に至る場合があります。

熱中症にならないためには？

熱中症予防の基本は暑さに負けない体作りと、規則正しい生活リズムです。また、日々の生活上のちょっとした工夫で熱中症は必ず予防できます。本格的な暑さが来る前に、運動や入浴などで汗をかくことで、暑さに身体を慣らしていくことも、熱中症予防に有効です。



意識がない、様子がおかしいと思ったら、**迷わず救急車!**



救急車を呼びべきが迷ったら
#7119

子どもと高齢者は特に気を付けて！

子どもや高齢者は熱中症にかかるリスクが高くなっています。家族や周りの人は、自分の身を守ると同時に、常に気にかけてあげましょう。

子ども

- ①汗腺や体温調節機能の未発達
- ②低身長のため、地面からの照り返しの影響を受けやすい
- ③自分で対策をとることが難しい



高齢者

- ①体内の水分量が少ない
- ②体温調節機能の低下
- ③暑さに対する感覚機能の低下



もっと熱中症について詳しく！

環境省「熱中症予防情報サイト」には、熱中症の情報が数多く掲載されていますので、一度ご覧ください。

